

8月は食中毒防止月間です。気温が高くなるこの季節、食中毒を防ぎましょう

# 食中毒に気を付けて！ 予防3原則と6つのポイント

静岡県中部保健所衛生業務課 ☎054 (644) 9283  
島田食品衛生協会 ☎054 (644) 9159

this month  
HighLight

1

今月の注目

食中毒は、飲食店などの外食で発生しているだけでなく、家庭でも発生しています。家庭における食中毒は、症状が軽かったり、家族のうち全員には症状が出なかったりする場合もあるため、食中毒であると認識されないケースも少なくありません。

厚生労働省の統計では、家庭での食中毒の発生件数は全体の1割程度となっていますが、実際にはもっと多く発生していると推測されます。家庭には食中毒の危険が潜んでいるのです。

特にお子さんやお年寄りなど抵抗力の弱い方はよく加熱して食べるようにしましょう。

## 食中毒予防の3原則

1. 付けない(まな板・調理器具・手指を清潔に保つ)

2. 増やさない(食品を室温状態で放置せず、迅速調理・冷蔵保存に心

掛ける。低温で管理するよう冷蔵は4℃以下、冷凍はマイナス18℃以下に保つようにする)  
3. やっつける(加熱殺菌に心掛け、十分に加熱し中心部85℃で1分以上加熱処理をする)

## 6つのポイント

家庭での食中毒予防は、食品を購入してから、調理して、食べるまでの過程で、どのように、細菌を「やっつける(殺菌)」を実践していくかにあります。その中で、①買い物、②家庭での保存、③下準備、④調理、⑤食事、⑥残った食品、この6つのポイント(状況)に応じて特に注意をして予防に努めましょう。

町内食中毒ゼロを目指し、予防3原則を心掛けましょう。

詳しくはインターネットで「食中毒政府広報」と検索してください。

熱中症がピークとなる季節を迎えるに当たり、呼び掛け合うことで防ぎましょう

# 気付いてからでは遅い！ 熱中症を正しく理解し予防を

生活健康課健康室(本庁) ☎(56) 2222  
住民生活室(総合支所) ☎(56) 7070

this month  
HighLight

2

今月の注目

熱中症は予防ができる病気です。暑い夏を元気に過ごすため、熱中症のことをよく知り、しっかりと予防しましょう。

心臓や腎臓、その他持病をお持ちの方は、夏の過ごし方についてかかりつけの医師に相談し、上手にコントロールしましょう。

自力で水を飲めない、意識がない場合は危険です。直ちに救急隊を要請しましょう。

「水分補給」と「暑さを避ける」

1. 水分・塩分補給  
▼のどの渇きを感じなくても、こまめな水分・塩分の補給を

2. 熱中症になりにくい室内環境  
▼扇風機やエアコンを使った温度調整

▼室温が上がりにくい環境の確保(こまめな換気、遮光カーテン、すだれ、打ち水など)

3. 体調に合わせた対策

▼こまめな体温測定(特に体温調節機能が十分でない高齢者、子どもなど注意を)

▼通気性の良い、吸湿速乾の衣服着用

▼保冷剤、氷、冷たいタオルなどによる体の冷却

4. 外出時の注意

▼日傘や帽子の着用

▼日陰の利用、こまめな休憩

▼通気性の良い、吸湿・速乾の衣服着用

▼天気の良い日は昼下りの外出をできるだけ控える

注意するポイント

1. 暑さの感じ方は人によって異なります！

2. 高齢の方は特に注意が必要です！

3. まわりが協力して、熱中症予防を呼び掛け合うことが大切です！

4. 節電を意識するあまり、熱中症予防を忘れないようご注意ください！



勇壮な赤石太鼓の披露。



雨の中、多くの関係者が集まりました。



感謝状を贈呈された3団体。㊦大井川鐵道㈱、㊧中部電力㈱大井川電力センター、㊨静岡森林管理署



最盛期には約15万人が訪れた観光地。再生とともに“日本一清楚な観光地”を目指す。

# 寸又峡温泉開湯50周年を迎え 100年目へのスタートを誓う

寸又峡美女づくりの湯観光事業協同組合は7月1日に開湯50周年を迎え、記念式典を挙げる。町民や開湯時からの関係者ら、約100人が出席しました。

式典後は、山の幸を盛り込んだ半世紀前の郷土料理が振る舞われ、地域資源の掘り起こしや理想とする健康・健全で清楚な温泉地づくりについて活発な意見が交わされました。

詩吟・舞踊や赤石太鼓も披露され会場を盛り上げていました。

## 懐かしの郷土料理とアトラクションも

式典では感謝状と表彰を  
関東森林管理局静岡森林管理署、中部電力㈱大井川電力センター、大井川鐵道㈱の3団体に感謝状が贈呈され、旅館などに長年勤務してきた12人の従業員に表彰状が手渡されました。

昭和32年12月7日に温泉街から約4キロ上流の大間川支流湯沢にて湯温43℃、毎分600リットの自噴の温泉を掘り当てた。望月恒一さん(94歳)大間区は「人生で最高の感激だった」と振り返る。源泉からの引湯工事が完了した日が昭和37年7月1日。寸又峡温泉が誕生してから50周年を迎え、記念式典が挙行されました。



詩吟とともに舞踊が披露された。



半世紀前の郷土料理が振る舞われた。



当地にゆかりある関係者らが出席。